



島根大学医学部附属病院広報誌

しろうさぎ

S H I R O U S A G I



今年も健康な1年を!



特集 Special issue

『体からのメッセージ ～うんちのはなし』

📎 病院長 井川 幹夫 年頭のご挨拶

📎 インタビュー

- 消化器内科 教授 石原 俊治
- 消化器内科 助教 玉川 祐司

Contents

- * プロジェクトM
- * 私のここだけの話
- * 留学生の国自慢
- * ニュース&トピックス
- * イベントなどのお知らせ
- * しまだい病院のキラ☆めき!



こころをひとつに



島根大学医学部附属病院
病院長

い が わ み き お
井川 幹夫



当院は昨年、1979年の開院から40周年の節目を迎え、10月に記念式典、祝賀会を執り行いました。式典では、学長および理事、当院職員のほか、島根県の地域医療を支える関連病院の院長等の皆様と一緒に、映像で当院のあゆみを振り返り、当院の維持・発展に尽力いただいた先人の功績に思いを馳せ、この成長を支えていただきました地域の皆様への感謝の気持ちを新たにいたしました。

奇しくも昨年は、本学の前身である島根医科大学医学部第二外科で、日本初の生体肝移植が行われた1989年から30周年にあたりました。重い肝臓障害で、助かる見込みがないといわれた1歳児に、父親の肝臓の一部を移植したこの手術は、国内で前例がなかったため、当時は大変な逆風を受けました。しかし、外科チームは、患者を救う唯一の方法、「生体肝移植」を決断し、こころをひとつにして、望まれる適切な医療を提供しました。当院で行われた英断が嚆矢となり、他の大学病院もこれに続き、現在では、移植医療により、たくさんの命が救われています。

この「新たな挑戦をおそれない」という精神は、現在も脈々と引き継がれています。

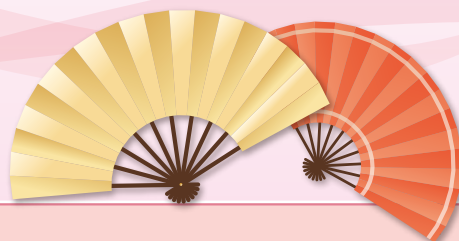
院内の新体制としましては、RRS（ラピッド・レスポンス・システム）を導入し、入院患者さんの病状の急変時に備えています。また、国内でも高い評価を受けております高度外傷治療・救急医療分野では、防災ヘリ、ドクターカーに高度外傷センターの医師が搭乗し、速やかな病院前診療を行っています。災害医療・危機管理センターの機能も充実させ、国内の災害時の要請にも応じ、DMATを派遣しています。

今年の展望としましては、昨年12月に施行された「脳卒中・循環器病対策基本法」に応じて、「高度脳卒中センター」を設置します。脳卒中には、これまでも脳神経内科、脳神経外科、救命救急センター、リハビリテーション科が連携して対応しておりましたが、「高度脳卒中センター」設置により、急性期の脳卒中の診療体制の強化を図ります。

また、今後は、将来増加が想定される難治性の血液がんへの新しい治療法「CAR-T細胞療法」の導入の準備も進めています。これは、患者さんの体内にある、がんの免疫細胞であるT細胞を、遺伝子医療の技術を用いて活性化し、体内に戻して標的抗原を有するがん細胞を攻撃させ、効果を得る治療法です。

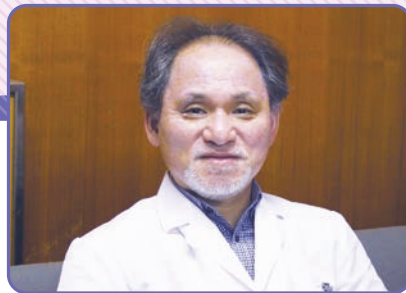
本年もアンケートなどを通して、患者さんの声に真摯に耳を傾け、駐車場の拡充、院内施設サービス向上、診療の待ち時間の短縮など、日々改善を図ります。

当院職員一同、今後もこころをひとつにして、地域の皆様とともに前進を続けて参ります。



炎症性腸疾患(IBD)とは？

消化器内科 教授 ^{いしはら しゅんじ} 石原 俊治



——炎症性腸疾患（IBD）は免疫異常の病気と聞きましたが、最近、アレルギーなど、免疫異常の病気が増えているのですか。

現代は、世の中の衛生状態が良くなり、環境がきれいになりすぎているといわれています。

「衛生仮説」（乳幼児期までの感染や非衛生的な環境が、その後のアレルギー疾患の発症率を低下させる）によれば、免疫異常の病気が発生しやすい環境になっているといえます。

——免疫とはどんなものですか？

私たちの体には、ウイルスや細菌など害を与えるものを体内から追い出す仕組み「免疫系」と言われる防御システムがあります。「免疫系」は実際に異物が体内に入ると、異物を排除するために活動し、腫れや、痛み、発熱などの炎症を起こします

このような免疫系の異常が引き起こす炎症が、消化管に起こるのが、「炎症性腸疾患（IBD）」です。原因がわからず、完治が難しいため、厚生労働省の難病に指定されています。IBDとしては、「クローン病」や「潰瘍性大腸炎」がよく知られています。IBDの診断は、問診、便検査、血液検査、内視鏡検査によって総合的に行います。

——「クローン病」はどのような病気ですか。

クローン病は10～20代に多く発症し、下痢と腹痛が主な症状です。血便、体重減少、発熱、肛門の周囲に膿がたまるなどの症状が現れることもあります。以前は食事療法が中心でしたが、現在では有効性の高い生物学的製剤の使用が可能です。しかし、良くならない場合は外科手術が必要になります。

——「潰瘍性大腸炎」はどのような病気ですか。

潰瘍性大腸炎は大腸だけに炎症がおこる病気で、若年者に多い病気ですが、高齢者に発症する場合があります。下痢、下血、発熱が主症状で、だんだん体が衰弱すると入院が必要となります。複数の新規薬剤の使用が可能となっていますが、難治例では手術に至る場合もあります。

——「IBDセンター」とはどんな部門ですか。

当院では週2回専門外来を開設しており、患者数の増加に備えて、内科や外科の医師だけでなく、薬剤師、看護師、栄養士、医療工学士など様々な部署のみなさんと「IBDセンター」を設立して、チームでIBD診療に携わっています。

症状があったら、我慢せずに、早目に受診されることをお勧めします。

クローン病の症状 主な症状



他の腸疾患と異なる点

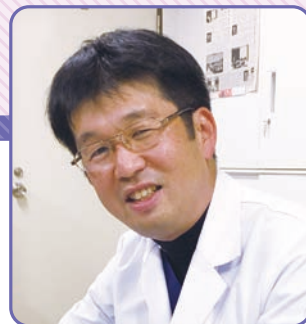
- 肛門部に病変がある。
- 夜中に腹痛・下痢が起こる。
- 微熱が続き、寝汗をかく。

潰瘍性大腸炎の症状



便秘はどうしたら治りますか？

消化器内科 助教 ^{たまがわ ゆうじ} 玉川 祐司



——便秘について教えてください。

20年ほど前には、便秘とは、「3日間便が出ない人」という定義が一般的でした。しかし、現在の定義では、「本来、体外に出すべき糞便を、十分量かつ快適に出せない状態」とされています。毎日便が出ている人でも、スッキリしない人は便秘です。

そして、「便秘」によっていろんな症状が出てくることを「便秘症」といいます。「便秘症」は排出障害があることをいいます。こうなると、検査とか本格的な治療の介入が必要になってきます。

——「便秘」にはどんな治療をするのですか。

患者さんによって一人ひとり状態が違うので、まず、最初に来られたときに話をゆっくり聞いて、得られた情報から、原因を見つけ、患者さんと一緒に治療の目標を決めます。

診察のときお尋ねすることは、

●便の回数 ●便の形態 ●便の量 ●排便のときスッキリ感があるか で、排便がその人にとって快適であるかどうか、一番のポイントです。

最初は、「食事をちゃんと食べたか」、「どういう排便があったか」、「スッキリ感はあったか」を毎日記録する排便日記をつけていただきます。まず生活習慣から見直していただくのです。三食きちんと食べて、水分を摂って、適度な運動をして生活リズムを整えることをお勧めしています。

診察では、便通異常の原因を突き止めるため、様々な情報を集めます。お薬手帳もすべてを見せていただいています。複数の薬を飲んでいる方は、薬の相互作用が原因の場合もありますので。

家族の方も一緒に来てお話いただけるといいと思います。客観的な情報を総合的に判断して、その方に必要な検査を受けていただいてから治療をはじめます。

——検査では何がわかりますか。

便通異常の背景には、腸をふさぐような器質性の病気がある場合もあります。大腸の内視鏡検査で大腸がんが見つかることもあります。

——特に女性の方は、受診をためらう方も多いのではないのでしょうか。

当院では、隔週水曜日に女性専門の「便通異常外来」があります。女性患者さんへの配慮から、女性の医師が担当しています。安心してご相談ください。

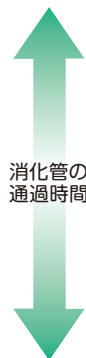
——便秘にならないようにするためには。

よい生活習慣を心がけて、健康管理のために、自分の出したものをちらっとでもいいので、毎日確認してみてください。

ブリストルスケール
(右図)の④番を
めざしましょう！



非常に遅い
(約100時間)



非常に早い
(約10時間)

ブリストルスケール

①コロコロ便		硬くてコロコロの 糞糞状の便
②硬い便		ソーセージ状であるが 硬い便
③やや硬い便		表面にひび割れのある ソーセージ状の便
④普通便		表面がなめらかで軟らかい ソーセージ状、あるいは 蛇のようなとぐろを巻く便
⑤やや軟らかい便		はっきりとしたしわのある 軟らかい半分固形の便
⑥泥状便		境界がぼけて、ふにゃ ふにゃの不定形の小片便 泥状の便
⑦水様便		水様で、固形物を含まない 液体状の便

膵がんは、発見からの5年生存率が7パーセントと極めて低く、画期的な新しい治療法の開発が望まれている。島根大学医学部には、膵がん撲滅を目指し、基礎研究・臨床研究を集学的に行い、新しい治療法の開発を研究するトップランナーたちがいる。

3 話 連 載

第1話

臨床医から基礎研究者へ

夢中で追いかける

生化学講座（病態生化学）教授 浦野 健（うらの たけし）は昭和33年、長崎大学医学部附属病院で外科医をしていた父の下に生まれ、自然と医師を志した。長崎大学医学部に進学後は、医学の勉強の傍ら、寝ても覚めても硬式テニス。真っ黒になって、夢中でボールを追いかける毎日だった。

卒業後、浦野は、研修医として長崎大学医学部の外科の医局に所属した。ここでは、1年ごとの派遣先の病院ローテーションを“じゃんけん”で決めていた。強運体質というのだろうか、浦野は、琉球大学、長崎市民病院、浜松医療センターなど手術症例数の多い病院での勤務が続いていた。とうとう、同級生から「お前はいいところばかり行きすぎだ。平戸で田んぼでも耕してこい。」と言われ、「いいよ。」と、彼は二つ返事で承諾した。

腕利きの外科医

そんな経緯で、昭和62年、平戸市立紐差（ひもさし）病院（現平戸市民病院）への派遣が決まった。平戸は同級生の言ったとおり、自然に囲まれたのどかなよい島だった。

紐差病院では病院長・研修医を含め、外科医は3人だった。浦野は高度外傷、救命救急を2年間、24時間体制で担当した。

「必ず助ける!救急車はすべて僕が担当する。僕の目の前を救急車に素通りさせるな!」

病院内に住み込み、当直はほぼ毎日、緊急手術も数多く行った。

助走期間

救急車が来ない日は勉強に打ち込んだ。平戸はその点、誘惑もなく非常によい環境であった。ちょうどその頃、アメリカでは“がん遺伝子”が次々と発見されていた。“がん遺伝子”を扱う分子生物学が未来への大きなうねりとして彼の中に流れ込み、「アメリカで、がん遺伝子の研究がしたい」と思うようになった。彼はいつか来るその日に備えて、給料を留学資金として貯めていった。

紐差病院の小児科には長崎大学から3か月のローテーションで医師が来ていた。小児科に派遣されるのは、留学を控えているか、留学後、診療に慣れるために、ここで診療を行う医師であった。

浦野は、留学を終えて帰ってきた先輩医師からよく尋ねられた。

「お前英語できるのか。」「できません。」

「研究やったことあるか。」「ないです。」

「長崎大学に研究ができる若い良い教授が来たので、そこでまず勉強したらどうだ。」

何人もの先輩医師が同じ名前を挙げた。その人にぜひ会ってみたいと思った。

紐差病院の2年目は、大学へ通うことを許された。大学院入学に備えて、勉強のため、車を買った。彼は週1回、車で150km、3時間半かけて平戸から長崎市へ向かった。ほぼ毎週である。大学で行われる抄読会やディスカッションに夕方5時から参加した。終わるのは夜中の1時、2時という白熱ぶりだった。この勉強会では知識ばかりではなく、かけがえのない大きなものが得られた。

浦野は紐差病院での勤務を終え、平成元年長崎大学大学院に入学した。もちろん、多くの仲間たちと日夜議論を闘わせながら“がん”について研究をし、博士の学位を取得した。そして平成5年、国際ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラムの支援を受け、米国タフツ大学 生化学教室へ博士研究員として派遣されることになった。



生化学講座（病態生化学）
教授 浦野 健

（次回予告）

満を持してアメリカ留学へ臨む浦野。現在の彼の研究の萌芽はここから始まる。



私のここだけの話

「ノスタルジア」

医療サービス課 課長補佐 田邊 誠



私が現在の所（市内塩冶地区）に居を構えたのは平成2年のことでした。

自分自身が小学生の時に2度転校を経験しており、出来れば子供の小学校入学前にとっていたところ、環境の良いところに土地物件を見つけました。

当時、家の周りは緑（田んぼ）がいっぱいで、蝶々やトンボなどの昆虫たちが飛び交い、初夏にはホタルが家の庭まで舞い込むほどで、親子共々楽しんでいました。

それから約30年、今では開発が進み、田んぼは埋め立てられ、道路が敷設され、沿線も住居や店舗が建ち並び、緑はすっかり少なくなっていました。虫の姿もめっきり少なくなり、かわりに道路を車両が行き交い、時にはエンジン音をまき散らしています。

開発されて得た便利さを甘受しながら、田んぼを渡る風やホタルの点滅を懐かしむ昨今です。



自慢

法医学講座
スルタナ・
ジャナトゥル・
フェルドゥーシュ・
ジェリンさん



今回は**バングラデシュ**の ジェリンさんに母国について紹介していただきました。

こんにちは！私の名前はジェリンです。現在、島根大学で勉強しています。

私はバングラデシュのマイメンシン出身です。マイメンシンは、1787年に英国東インド会社によって構成されたバングラデシュの16の古い地区の1つで、農科大学、医科大学、女性教師養成大学、女子訓練大学といった教育機関があることで知られています。

他にも、軍営舎、アナンダ モハン大学などがあります。この町は、ブラマプトラ川、ノクシカタ（バングラデシュの伝統的な刺繍キルト）、および多くの伝統的な道具と関わりがあります。モンダとマライカリは、有名なお菓子です。Mymensingh Gitikaは、この地方のすばらしい謡曲集です。かつてこの地はジュートの生産で非常に有名でしたが、現在は、それに代わるものとして、大量の魚を地元および世界の市場に出荷しています。マイメンシンは、バングラデシュの子供たちの生活と教育に最適な場所の1つです。ぜひ訪れて楽しんでください。マイメンシンでお会いしましょう。お待ちしております。



モンダ:ヨーグルトと砂糖でできています。

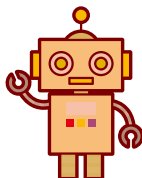
こんにちは！ロボ木ー（ろぼきー）

ニュース & トピックス
NEWS & TOPICS

令和元年11月27日小児センターで「ロボ木ー」贈呈式がありました。

チャーリー博士（島根大学名誉教授 山下晃功氏）が考案開発した、島根発の木育（もくいく）キャラクター「ロボ木ー（ろぼきー）」は、地球温暖化から人類と地球を救う、世界初の「エコ・ロボット」です。このたび、病気やけがで苦しんでいる子どもたちを救うために、小児センターに寄贈されました。子どもたちに、少しでも勇気と希望と癒しが感じられるようにとの願いが込められています。

子どもたちは、チャーリー博士の話を楽しく聞いてから、手で触ったり、話しかけたりして「ロボ木ー」と友達になりました。



イベントなどのお知らせ

島大病院 ちょっと気になる健康講座

島大病院には、専門知識を備えた、医師をはじめとする様々な職種の職員が医療・医事業務に携わっています。

当院に来院される患者さんや一般市民の方の健康づくりにすこしでもお役立ていただきたいとの思いから、健康や医療に関するミニ講座を定期的開催しています。予約不要で途中参加・退出も自由です。どうぞお気軽にご参加ください。

実施内容は下記のとおりです。

対 象 患者さんほか一般市民 場 所 外来1階 外来待合ホール
時 間 11:00～11:30



回数	月 日	担 当	講 師	テーマ
第294回	1月 9日(木)	小児科	安田 謙二	インフルエンザの治療について
第295回	1月16日(木)	麻酔科	日下あかり	あなたにもできる!心臓マッサージとAED ～ PUSHプロジェクト～
第296回	1月23日(木)	呼吸器外科	小柳 彰	肺癌の外科治療～完全胸腔鏡下からロボット補助下～
第297回	1月30日(木)	リハビリテーション部	酒井 康生	地域で繋ぐ再骨折予防の輪～当院骨粗鬆症リエンの取り組み～
第298回	2月 6日(木)	呼吸器・化学療法内科	中島 和寿	肺がんの最新治療
第299回	2月13日(木)	心臓血管外科	和田 浩巳	小さなキズでできる大動脈瘤手術
第300回	2月20日(木)	総合診療科	未定	未定
第301回	2月27日(木)	材料部	林 誠	滅菌について
第302回	3月 5日(木)	輸血部	井上 政弥	これからの輸血療法
第303回	3月12日(木)	病理診断科	石川 典由	良性腫瘍と悪性腫瘍
第304回	3月19日(木)	腫瘍・血液内科	岡田 隆宏	未定
第305回	3月26日(木)	腎臓内科	加藤 志帆	健診の腎臓的上手な活用法

病院ボランティアコンサート開催予定

令和2年2月28日(金)19時から

ゴスペルメイツ

開催場所：附属病院1階外来待合ホール



島大病院 ちょっと気になる健康講座 放送予定 (出雲ケーブルビジョン)

令和2年1月放送

肝臓内科 医科医員 矢崎 友隆

放送内容：「今、注目されるB型肝炎のおはなし」



島大病院 書籍のご紹介



島大病院 簡単レシピ第3弾 院内で好評配布中



第3弾は糖尿病食の特集！

体にやさしいメニュー 12品を毎日の献立にお役立てください。
食事から健康に。栄養治療室の願いです。

しまだい病院のキラ☆めき！

島根大学病院でキラキラ輝きながら、めきめきと実力をつけている若手医療職員を紹介するコーナーです。皆様に信頼される医療を提供するため、今日も笑顔で、仕事に取り組んでいます。



卒後臨床研修センター 初期研修医 菅野 晃輔 (かん の こう すけ)

初期研修1年目の菅野です。私は複数の診療科を順次ローテーションし、医師として自分に必要な知識や技能、考え方を習得しています。

また、学生時代に始めた茶道は月に1～2回程度ではありますが今も続けていて、少しずつ新しいことを学んでいます。

今後は自分の武器を着実に増やしつつ、趣味や交流も保って、医師としても人間としても深みを増えるよう精進していきます。

栄養治療室 栄養士 足立 里穂 (あ だ ち り ほ)



大学で栄養学を専攻し、食と健康の関係はとても密接だと気づきました。栄養学を生かして健康を支えたいという思いで、給食管理や栄養指導に携わっています。

趣味はおいしいものを食べることで作ることです。最近はシンプルな料理をいかにおいしく作れるか、様々なレシピを試しています。



薬剤部 薬剤師 神田 翔磨 (かん だ しょう ま)

2018年に入職し、2年目となりました。仕事は調剤業務や病棟業務を中心に行っております。

調剤では薬剤師としての技能を得ながら業務を行い、病棟でその技能を生かし、患者さんへの服薬支援や処方確認等を行っています。

また、研究の面からも医療を支えたいと思い、仕事をしつつ島根大学大学院に進学しました。仕事と研究で忙しい日々を送っておりますが、多くの知識を吸収し、患者さんや他職種の方々に貢献できるように頑張っています。

編集後記

世の中では、空前の大ブーム(!?)「うんち」について特集しました。

「ドリル」が小学生に大人気だったり、東京(お台場)には「ミュージアム」もできました。また大人の間では、「腸活」、「美便」という言葉もできて、腸内から免疫力向上を目指す意識が高まっています。『運動』・『発酵食品や食物繊維をとり、腸内の善玉菌を整える』・『生活習慣を整える』がポイントということです。みなさんも「腸活」やってみませんか。



【編集者より】

島根大学医学部附属病院広報誌

しろうさぎ
についてのお問い合わせ先

(このQRコードで携帯から島根大学病院ホームページが見られます↑)

医学部総務課 企画調査係 広報担当

☎ 0853-20-2019

✉ mga-kikaku@office.shimane-u.ac.jp

🌐 <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

